

✦ 西原村から『ふれあいまつり』レポート)

村民一丸となって

震災からの復興を目指しています！

ご支援いただいた皆さまへの感謝とともに

西原村 住民課 浦田純弥

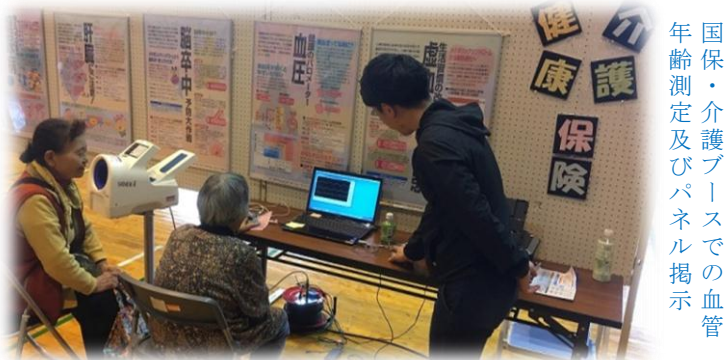
平成 28 年 11 月 20 日、今年で 17 回目となる『西原村ふれあいまつり』が開催されました。前日の雨で足元が悪かったにもかかわらず、これまでにないくらい多くの来場者があり、ステージイベントなどで賑わいました。

『ふれあいまつり』は、農業、文化、健康をテーマとした総合祭で、4 月 14 日、16 日の熊本地震により当初、今年度は中止となっておりますが、村民一丸となって熊本地震からの復興を目指す契機となるよう開催されることになりました。

まつりの中で最も人気があるのは、当村自慢の野菜の販売と地元の特産物を使った屋台などで、お昼ころには長蛇の列ができ、完売する店もありました。来場者の方は、「今年も西原産の新鮮な野菜をまつりで買うことができ、本当に嬉しい」と話されていました。

また、住民課では毎年、国保・後期・介護保険でブースを設け、健康管理に関する啓発を行っています。

今年は、健康パネルの掲示と血圧、血管年齢測定装置を設置し、実際に測定してもらうことで、健康意識を高めってもらうことにしました。血管年齢が思ったより高かった方は、健康パネルを真剣に見入っている姿が見受けられました。



国保・介護
年齢測定及びパネル掲示

当村は、国保・後期を 2 人、国保税を 1 人で担当しておりますが、震災発生後は執務室のキャビネットが倒れ、事務処理ができない状態で、地震後の開庁日に最低限の窓口業務、被保険者証の発行等が行えるよう整えました。とはいえ、支援物資の受け入れ、避難所の運営等をそれぞれ担当していたため、来客があった場合に庁舎に戻り、窓口業務を行うという状況が続きました。



震災直後の庁舎内の様子

5月に入ると、他自治体からの支援を受けて、徐々に通常業務に専念することができるようになりました。

しかし、本来の業務においても、地震に伴う保険税の減免、一部負担金免除の要綱等の整備や証明書発行等、経験したことがない業務をどのように進めるか、被災した近隣市町村と情報交換を行い、効率の良い方法により対応できたと思います。現在は、ほぼ地震前の状態に戻り、11月末には例年6月に実施していた住民検診（特定健診）も終了しました。

災害発生直後から県内外の自治体より支援をいただき、現在も復興業務を応援いただいております。感謝申し上げます。西原村は復興に向けて、一歩ずつ前進しています。



地震3日後には、多くの支援物資が集まりました



自衛隊からの支援物資搬入の様子